

13 野生って何だろう？



野生は、科学や理性とはちがった世界への入り口です。野生の世界が、人間の世界をさらに豊かで多様なものにしてくれます。

明治期に絶滅したエゾオオカミの剥製
／北海道大学植物園・博物館所蔵

14 いまはじまる道南の林業



道南の人工林は近年、伐採に良い時期を迎えています。森林は再生可能な大切な資源。私たちはいまはじめて、「伐採→利用→植林」のサイクルを活用する時代を迎えています。

撮影協力／株式会社ハルキ（森町）

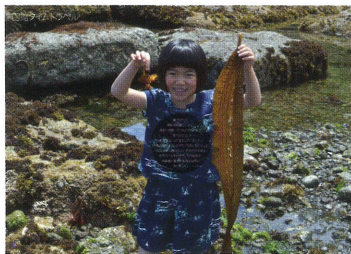
15 土が作った文明と農業



文明の基盤となる土は、岩石が風化作用で細かくなり、これに落葉をはじめとした有機物や微生物のはたらきなどが加わって作られます。1センチの土ができるのにさえ、数百年もの時間がかかります。

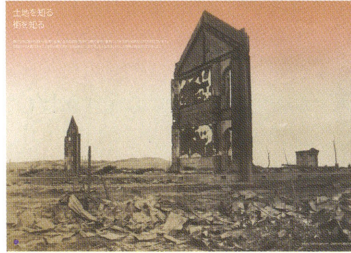
撮影協力／土の館（上富良野町）

16 函館タイムトラベル



函館には、全国的にも名高い縄文時代の遺跡群があります。縄文時代の津軽海峡圏の人々は、魚貝や鳥獣、木の实などを食べながら、集落をつくって定住していました。海峡圏の豊かで多様な自然がそれを可能にしました。

17 土地を知る。街を知る



豊かな海に囲まれ美しい坂道や名湯のある函館は、さまざまな災害のリスクをも抱えた街。人々は、「津波」や「大風」「大火」「土砂災害」「洪水」「火山噴火」などの危険と向き合って暮らしてきました。

昭和9年函館大火／函館市中央図書館所蔵

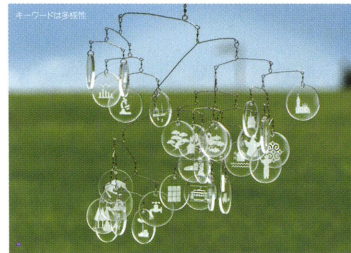
18 夜景の街だからこそ星空を



夜景や漁り火といった美しい光をもつ函館だからこそ、その背景となる夜空の濃さと深さを科学的に探究したい。遺愛女子中学・高等学校地学部の皆さんは、2006年から函館の夜空の研究を続けています。

写真提供／渡辺和郎氏（2015.06.21撮影）

19 多様性は、強い



多様性が豊かな社会は、さまざまなリスクに強い社会です。多様な人々が交わると、新しいことが現れます。個性が際立つもの同士がむりなく共存していると、豊かな調和と響きが生まれます。

20 Life finds a way.



いのちは生き延びる道を見つける。

山田農場（七飯町）／露口啓二撮影



人間と自然の関わりや、自分と世界との結びつき。科学と地域の目で、環境のことを考えてみましょう。

主催：サイエンス・サポート函館
協賛：函館商工会議所、(公財)日産財団、
ホンダカーズ北海道(株)、イシオ食品(株)、函館環境衛生(株)、
(株)花びしホテル、(株)トーションビルサービス、
佐藤木材工業(株)、(株)エスイーシー、函館山ロープウェイ(株)
企画制作協力：ホッカイドウ・マガジン「カイ」

01



はこだて国際科学祭2015 企画展
みんなの環境もんだい
世界と君は響き合う。

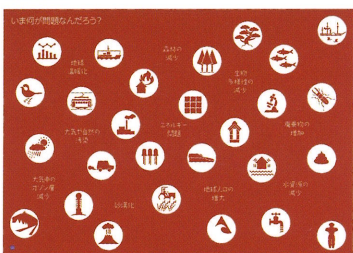


02



七飯町の田園風景と函館市街遠景
／露口啓二撮影

03 いま何が問題なんだろう？



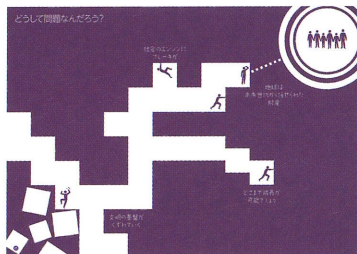
人間の営みが、天地自然の
営みの枠組みを
越えてしまっています。
そのことに
どんな意味があるでしょう？

04



原発事故後の居住制限区域
福島県富岡町にて／露口啓二撮影

05 どうして問題なんだろう？



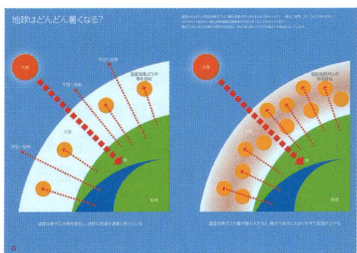
資源やモノの大量消費と
大量廃棄は、やがて文明を
芯から弱らせていくでしょう。
私たちには、いまの地球環境を
次の世代へ引き渡していく
責任があるのでは
ないでしょうか。

06 人間は自然の一部？



人間は自然の一部。
でも自然は人間世界の一部。
なんだか複雑なこの関係が
難問です。
自然は人間世界の一部であり
ながら、人間だけでは解決
できない問題に満ちています。

07 地球がどんどん暑くなる？



人間社会の活動が出し続けて
きた二酸化炭素などで、地球は
少しずつ暖かくなってきました。
このままでは、たくさんの
生きものや人間の営みが
深刻な影響を受けてしまう
ことになります。

08 家庭でできることは？



二酸化炭素の排出量を
減らすこと。
そのためには、家電製品の
節電を心がけたり、公共交通の
利用を増やしましょう。
小さな取り組みを重ねることで、
地球の針路も変わるはず。

09 ペリー艦隊が見た箱館



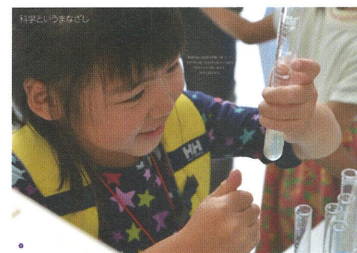
1854年の春、ペリー艦隊が
箱館に来航しました。
彼らは港の水深を測ったり、
地理や気象を調べ、動植物、
魚類、鳥類などの採集を
行いました。
人々の暮らしもじっくり
観察しました。

10 ブラキストンが暮らした函館



トーマス・ライト・ブラキストン
(1832-1891)は、幕末から
明治にかけて
函館に暮らしました。
製材業や貿易を営みながら
鳥類などの採集にも熱中し
博物学や科学の手法で道南の
自然を研究しました。

11 科学というまなざし



ペリー艦隊やブラキストンは、
世界を知りつくそうと、
たくさんのモノや現象を記録し、
収集しました。
それらを科学的に分析・分類
することで世界を形づくる
仕組みを少しでも理解しようと
しました。

12 人、エゾシカ、ヒグマ



道南のエゾシカは一度絶滅
しましたが、1980年代以降に
よそから持ち込まれ、近年増え
ている可能性があります。
渡島半島のヒグマには研究の
蓄積があります。
野生動物には、保護と管理の
バランスが問われています。